

長野県鉱工業指数 2024年1月分(速報)をお知らせします

●概況

2024年1月の長野県鉱工業指数は、前月比(季節調整済指数)で、生産は11.5%減と3か月ぶりの低下、出荷は10.2%減と9か月ぶりの低下、在庫は3.4%減と4か月連続の低下となりました。

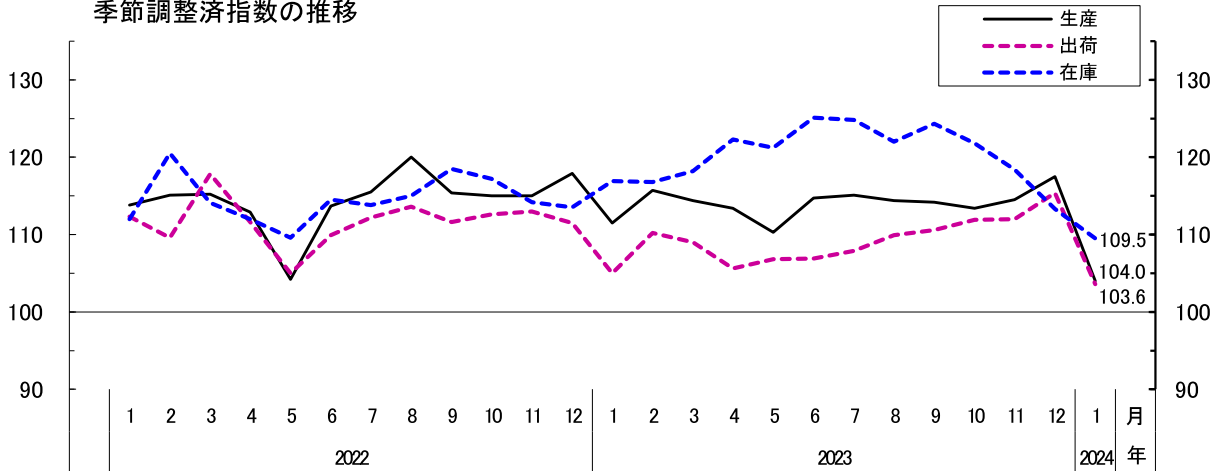
前年同月比(原指数)では、生産は4.9%減と3か月連続の低下、出荷は0.0%と横ばい、在庫は6.3%減と2か月連続の低下となりました。

※基準年を2015年(平成27年)から2020年(令和2年)に変更し、2018年(平成30年)1月まで遡及改定しました。基準改定の概要は巻末に掲載のとおりです。

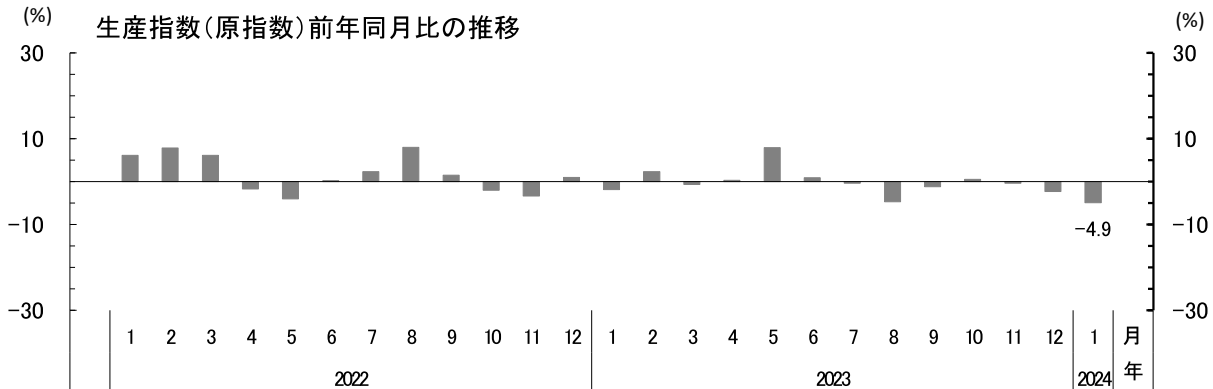
項目	2020年=100		2020年=100	
	季節調整済指数	前月比(%)	原指数	前年同月比(%)
生産	104.0 (117.5)	△ 11.5 (2.6)	99.5 (118.9)	△ 4.9 (△ 2.3)
出荷	103.6 (115.4)	△ 10.2 (3.0)	97.4 (117.8)	0.0 (2.0)
在庫	109.5 (113.3)	△ 3.4 (△ 4.3)	114.6 (115.5)	△ 6.3 (△ 0.2)

※()内の数値は、2023年12月分確報値

季節調整済指数の推移



生産指数(原指数)前年同月比の推移



※1) 季節調整済指数とは、原指数を季節調整(毎年季節的に繰り返される変動を取り除くこと)した指数のことで、原指数 ÷ 季節指数により算出します。

※2) 原指数とは、生産等の基準数量(基準となる年の月平均の数量)に対する当月の数量の割合のことで、当月の数量 ÷ 基準数量により算出します。

◎「長野県鉱工業指数」はインターネットでも提供しています。⇒ <https://www.pref.nagano.lg.jp/tokei/tyousa/iip.html>

確かな暮らしを守り、信州からゆたかな社会を創る

しあわせ信州創造プラン3.0
～大変革への挑戦「ゆたかな社会」を実現するために～

長野県総合5か年計画推進中

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
[長野県は「SDGs未来都市」です]



長野県は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

(問合せ先)

企画振興部 総合政策課統計室 統計第一係 百瀬、大林

電話：(直通) 026-235-7070

(代表) 026-232-0111 (内線) 5117

FAX：026-235-0517

E-mail tokei@pref.nagano.lg.jp

1 生産・出荷・在庫の業種別動向

		主な業種	季節調整済指数	前月比 (%)	寄与した主な品目
17業種	生産 上昇 1	化学工業	119.6	16.3	医薬品
	低下 16	情報通信機械工業	143.3	△ 22.8	
		汎用・生産用・業務用機械工業	101.6	△ 15.1	
		電子部品・デバイス工業	79.4	△ 12.7	電子回路

17業種	出荷 上昇 2	化学工業	137.0	4.1	医薬品
		繊維工業	80.1	18.5	ニット・繊維二次製品
	低下 15	汎用・生産用・業務用機械工業	110.5	△ 15.3	
		情報通信機械工業	117.2	△ 13.0	
		電子部品・デバイス工業	87.2	△ 9.5	

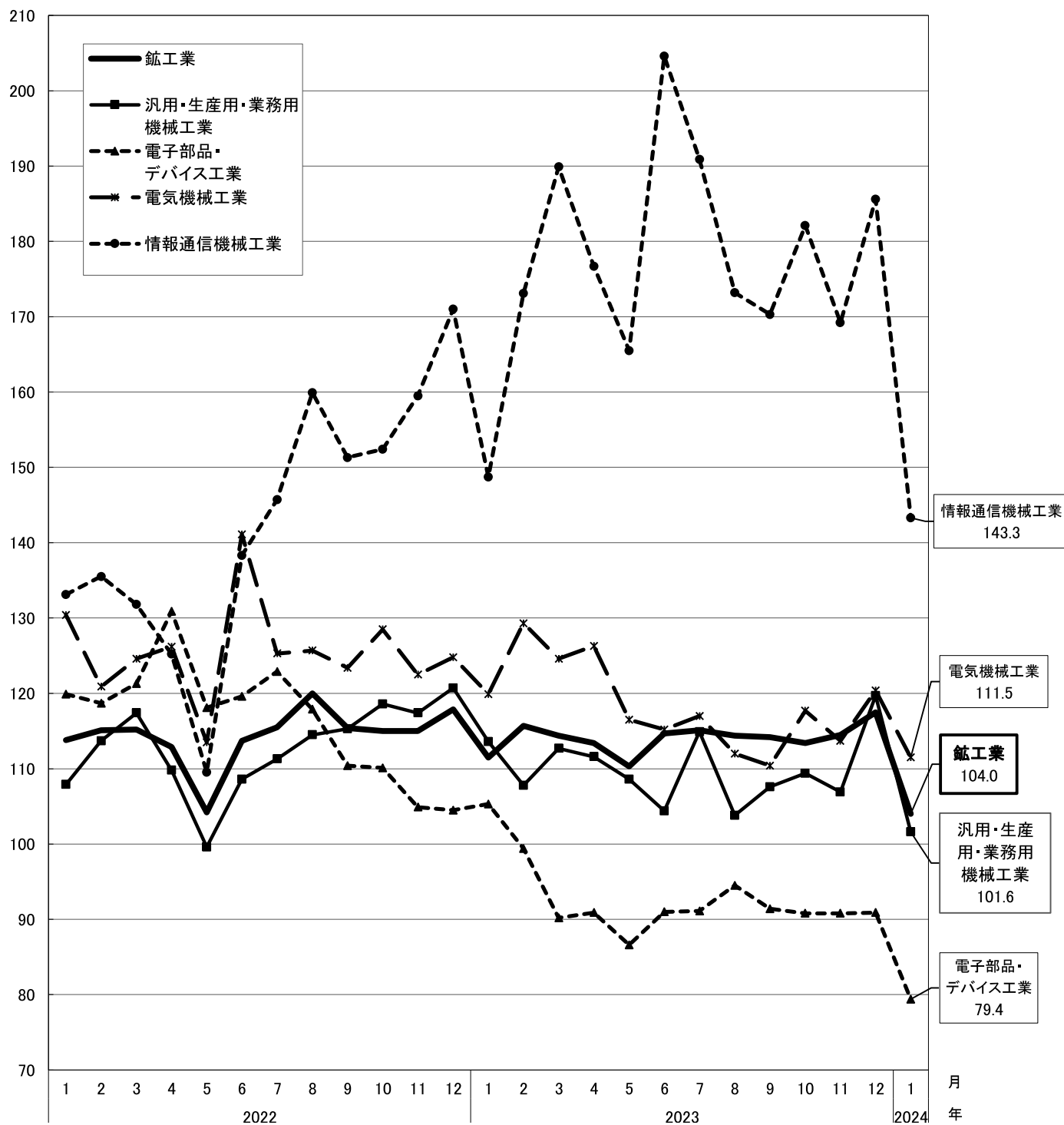
16業種	在庫 上昇 5	化学工業	132.8	4.6	医薬品
		プラスチック製品工業	109.0	5.9	プラスチック製品
		食料品工業	105.8	1.1	飲料
	低下 11	電子部品・デバイス工業	121.3	△ 6.9	
		汎用・生産用・業務用機械工業	129.7	△ 2.1	
		情報通信機械工業	93.2	△ 5.0	電子計算機及び関連装置

※「主な業種」については、寄与度(全体に与える影響)の大きいものを掲載してあります。

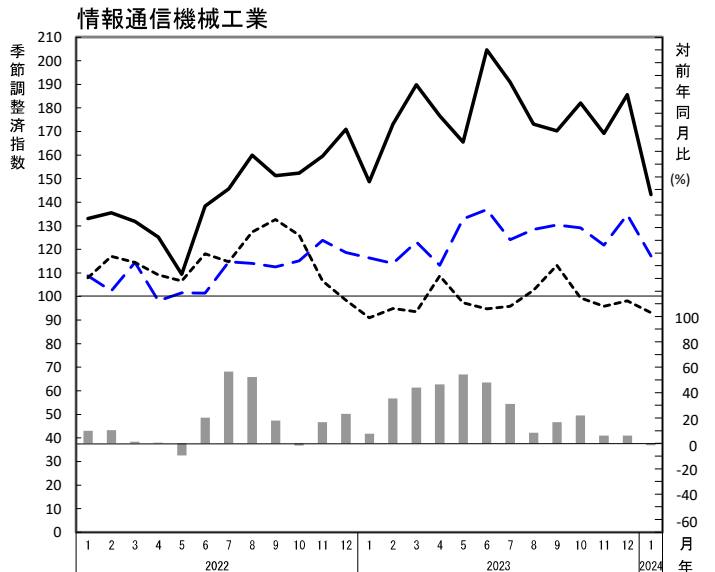
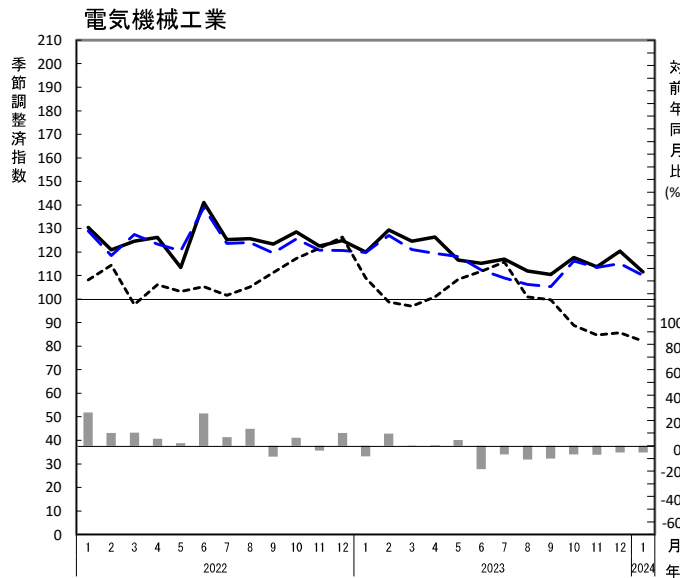
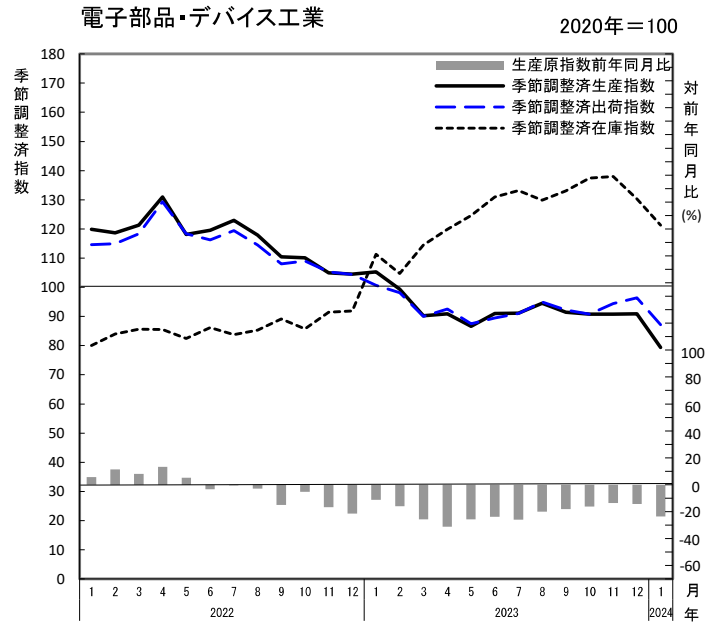
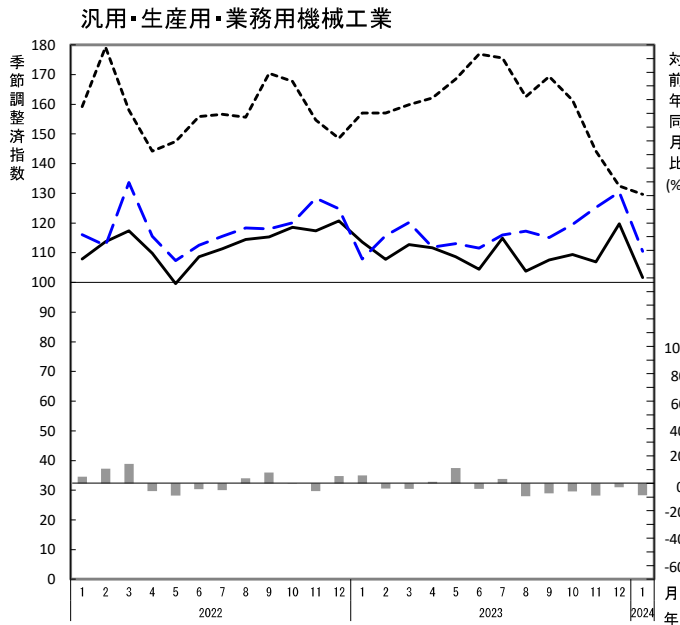
※「寄与した主な品目」については、対象事業所が少数の場合は掲載していません。

2 主な業種の生産指数(季節調整済指数)の推移

2020年=100



3 主な業種の生産指数等の推移



4 財別の動き(季節調整済指数)

2020年=100

項目	最終需要財		投資財		消費財		生産財	
	指数	前月比(%)	指数	前月比(%)	指数	前月比(%)	指数	前月比(%)
生産	108.7	△ 11.3	108.8	△ 13.9	109.6	△ 7.7	98.9	△ 12.6
	(122.6)	(3.5)	(126.4)	(9.2)	(118.8)	(△ 2.9)	(113.2)	(2.4)
出荷	111.1	△ 8.9	114.0	△ 12.4	107.6	△ 4.4	97.9	△ 8.6
	(122.0)	(2.1)	(130.2)	(2.4)	(112.5)	(1.9)	(107.1)	(1.9)
在庫	113.8	△ 0.8	118.7	△ 1.7	109.1	0.4	103.4	△ 6.8
	(114.7)	(△ 4.5)	(120.8)	(△ 5.8)	(108.7)	(△ 2.5)	(110.9)	(△ 4.4)

※()内の数値は、2023年12月分確報値

〔利用にあたって〕

1 目的

本県の鉱工業の動向をその数量的側面から総合的かつ迅速に把握することを目的としています。

2 資料

資料の出所は、主として経済産業省生産動態統計調査（統計法第2条第6項に規定する基幹統計調査）によりますが一部、関係官庁、事業所等からの提供を得ています。

3 分類

業種分類指数は、日本標準産業分類に基づき、生産及び出荷は147品目（製造工業146品目、鉱業1品目）、在庫は68品目（製造工業67品目、鉱業1品目）をもって鉱工業としたものです。

用途分類（財別）指数は、採用品目を投資財、消費財、生産財等の財別に格付し分類したものです。

4 基準年

2020年

5 ウェイト

2020年における付加価値額、出荷額、在庫額

6 算式

基準時の固定ウェイトで加重平均するラスパイレス算式

$$\text{総合指数} = \frac{\left[\frac{\text{比較時数量}}{\text{基準時数量}} \times \text{基準時ウェイト} \right] \text{の総和}}{\text{基準時ウェイトの総和}} \times 100$$

7 留意事項

原指数、季節調整済指数の在庫指数中、汎用機械工業及び輸送機械工業は在庫数量がとらえられないため、業務用機械工業は対象事業所が少数のため、それぞれ掲載していません。

鉱業については、対象事業所が少数のため、原指数、季節調整済指数ともに、生産指数、出荷指数及び在庫指数を掲載していません。

8 表中の記号

「x」は数値が秘匿されているもの、「—」は該当数値のないもの、「0」は単位未満を表わしています。

9 基準改定

2024年1月分（速報）から基準年を2020年に改定しました。これに伴い、2018年1月まで遡及し

て原指数、季節調整済指数を変更しています。

10 季節調整

生産指数及び出荷指数についてはセンサス局法（X-12-ARIMA）、在庫指数についてはセンサス局法（X-12-ARIMA 中の X-11 デフォルト）により品目別の季節指数を求めて算出しています。

注1 生産指数及び出荷指数における季節調整済指数系列は、季節要因に加え、曜日・祝祭日要因によっても調整されています。

具体的には以下のとおりです。

$$\text{季節調整済指数} = \text{原指数} \div (\text{季節指数} \times \text{曜日・祝祭日指数})$$

注2 ARIMA モデル、外れ値処理については、「長野県鉱工業指数基準改定の概要」を参照してください。

注3 季節調整済指数は8年間（96 時点）を採用しました。

11 その他

この統計表に掲載分以前の数値を修正する場合がありますので、長期的動向を見る場合は、当課で別途刊行する「長野県鉱工業指数年報」を参照してください。

平成27年基準の指数とは、時系列比較できないことにご留意ください。

長野県鉱工業指数基準改定の概要

2020年基準

1. 改定の趣旨

「長野県鉱工業指数」は、鉱工業の生産、出荷及び在庫数量を指数化することにより、その動向を総合的かつ迅速に把握することを目的として、毎月作成し公表しています。

鉱工業指数については、「指数の基準時に関する統計基準」（平成22年（2010年）3月統計基準設定）において「指数の基準時は、5年毎に更新することとし、西暦年数の末尾が0または5である年とする」とされていることから、現行の基準時で2015年から5年後の2020年を新たな基準年とし、ウェイトや採用品目等の見直しを行いました。

2. 改定する指数系列

- (1) 生産指数（付加価値額ウェイト）
- (2) 出荷指数
- (3) 在庫指数

3. 改定の主な内容

(1) 基準時及びウェイトの更新

指数の基準時を2015年から2020年に更新しました。

指数値は2020年の平均を100.0とした比率で示しており、ウェイトも2020年の産業構造によって更新しています。

(2) 採用業種の一部変更

(3) 採用品目の見直し

最近の生産活動の動向を反映するため、「経済産業省生産動態統計調査」等を参考に採用品目の見直しを行い、より代表性の高い品目を選定しました。

また、用途、単価の変動を考慮し、統合・分割や、採用単位の見直し等を行いました。

採用品目の改廃状況

項目	2015年 基準	2020年 基準	差	差の内訳		
				新規	廃止	統合
生産指数	147	147	0	8	△8	0
出荷指数	147	147	0	8	△8	0
在庫指数	70	68	△2	4	6	0

(4) ウェイトの見直し

業種別のウェイトは、経済センサスー活動調査を基礎資料とし、指数の業種分類概念に適合するよう調整した上で算定しました。

また、品目別のウェイトは、経済センサスー活動調査のほか経済産業省生産動態統計調査や各種業界統計などにより単価・金額等を推計し、業種別のウェイトを採用品目の金額構成比により按分しました。

ウェイトが変化した主な業種は、以下のとおりです。

ウェイト変化状況（生産・出荷・在庫）

指数の種類	主なウェイト上昇業種	主なウェイト低下業種
生産指数 (付加価値ウェイト)	情報通信機械工業 (802.5 → 1,249.5)	その他工業 (564.5 → 319.0)
	窯業・土石製品工業 (242.0 → 381.6)	金属製品工業 (649.0 → 444.3)
	化学工業 (315.1 → 422.3)	電気機械工業 (808.6 → 703.7)
出荷指数	情報通信機械工業 (862.3 → 977.0)	その他工業 (552.9 → 361.7)
	窯業・土石製品工業 (242.0 → 315.2)	電子部品・デバイス工業 (1506.2 → 1406.6)
	非鉄金属工業 (228.6 → 301.8)	電気機械工業 (726.1 → 666.2)
在庫指数	情報通信機械工業 (751.9 → 1209.6)	汎用・生産用・業務用機械工業 (2461.9 → 2117.8)
	化学工業 (401.0 → 673.4)	電気機械工業 (779.9 → 484.3)
	窯業・土石製品工業 (408.7 → 651.5)	紙・紙加工品工業 (252.0 → 60.8)

4. 季節調整法

季節調整法は、米国センサス局のX-12-ARIMAを用いて、ARIMAモデルやオプションを見直しました。

対象期間は2015年1月から2022年12月です。

ARIMAモデルは2015年基準では生産・出荷・在庫の全ての系列を(110)(011)としておりますが、2020年基準では系列ごとに下表のとおり設定しております。

なお曜日・閏年調整及び祝祭日調整について生産・出荷のフロー系列についてのみ行い、在庫のストック系列は行っておりません。

ARIMAモデルの適用結果

項目	通常ARIMA (p d q)	季節ARIMA (P D Q)	曜日・閏年調整 及び祝祭日調整	外れ値(種類※及び処理年月)
				※AO: 加法的な外れ値、TC: 一時的変化、LS: レベルシフト
生産指数	(0 1 0)	(0 1 1)	有り	TC2020.5、AO2022.5
出荷指数	(1 1 0)	(0 1 1)	有り	TC2020.5
在庫指数	(0 1 0)	(0 1 1)	無し	なし

5. 新基準への切り替え及び旧指数との接続

2020年基準指数は、令和6年1月分速報から公表し、過去系列は、平成30年1月分まで遡及します。

また、平成30年1月時点で旧指数との接続を行い、長期時系列を整備します。

2015年基準指数との接続係数の算出方法は次のとおりです。

$$\text{接続係数} = \frac{\text{2020年基準の平成30年（2018年）1～3月平均季節調整済指数}}{\text{2015年基準の平成30年（2018年）1～3月平均季節調整済指数}}$$